

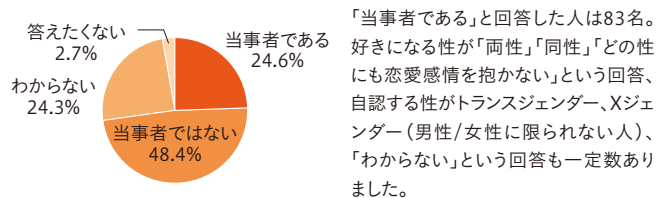


獨協大学ダイバーシティ推進連絡会*は、多様性を尊重する大学の環境整備に向けての計画策定の資料とするため、7月13日～8月9日、PorTaIIで全学生にアンケートへの協力依頼を配信、大学ホームページのアンケートフォームから意見を収集し、全学生の4.1%にあたる337名の学生から回答を得ました。アンケート結果の概要を報告します。

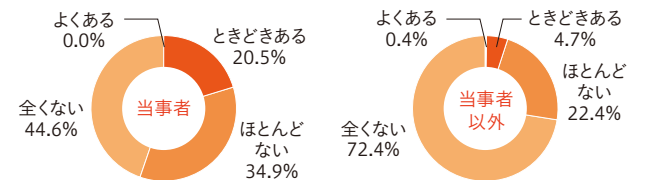
*ダイバーシティ推進連絡会

副学長を部会長、学生部長を副部会長とし、教務課、学生課、保健センター、入試課、キャリアセンターの職員で構成。入学試験受験から卒業、キャリア支援まで、連携して学生サポートすることを目的とする。

■ セクシュアル・マイノリティの自認状況

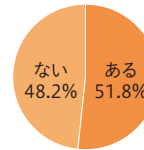


■ 他の学生から差別的発言を受けた／見聞きした経験



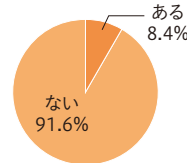
当事者のほうが、当事者以外より敏感に受け止めていることがわかります。「教職員からの差別的発言」についても、「他の学生から」とほぼ同じ比率でした。

■ カミングアウトの経験(当事者のみ回答)



電通ダイバーシティラボ「LGBTQ+調査2020」では、カミングアウト経験者は42.6%、未経験者は57.4%でした。本学学生のほうが、カミングアウトしやすい環境にあるのかもしれませんが。

■ アウティングの経験(当事者のみ回答)



本人の同意なしに第三者にLGBTQだと伝えられた経験のある人は、1割弱いました。

自由記述回答のなかで当事者および当事者以外の両方から多かった意見は「呼称を“～さん”で統一すべき」でした。また、セクシュアリティについてだけでなく、旧来の男女の役割差別的な教員の発言によって傷ついた体験をもつ学生が少なからずいることがわかりました。アンケート結果は会議等を通じて全教職員に共有し、速やかに改善につなげます。

また、以下の要望については、今後段階的に取り組んでまいります。

- ・ジェンダーとセクシュアリティを理解するための授業の増設、セミナーの開講
- ・誰もが安心して使えるトイレにするための工夫
- ・匿名で相談できる相談窓口の周知

今回の調査結果をもとに、『ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブック』（仮称）を12月に発行予定です。ぜひご覧ください。

ぶらりらいぶらり Vol.104 特別編



今回の「ぶらりらいぶらり」は特別編。普段あまり目にする事のない「自動書庫」へ学生記者が取材に行き、お話を伺ってきました。

■ 自動書庫とは？

機械が本の出納をするので「自動書庫」と呼ばれています。本学の自動書庫は100万冊の収容が可能で、日本でもトップクラスの規模を誇っています。現在図書館に所蔵している約100万冊のうち、約62万冊が自動書庫にあります。

■ 使い方

蔵書検索(OPAC)の画面で所在が自動書庫となっている場合、予約・請求ボタンからオンライン出庫請求をすると機械が動き出します。本の入ったコンテナは出納ステーションへと届けられ、利用者は1階メインカウンターで本を受け取ることができます。

■ メンテナンスについて

自動書庫は、2007年に導入されました。大切な資料を安全に保管し、利用者にも間違いなく届けられるよう、定期的に部品交換などのメンテナンスを行っています。特に2022年度は導入から15年目に当たることから、夏・秋・冬の3期に分けて、大規模なメンテナンスを予定しています。(詳細なスケジュールは、図書館ホームページなどでお知らせいたします。)

メンテナンス中は自動書庫からの資料の取り出しができず、作業音も発生しますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

■ 自動書庫ツアー開催！

『シークレット・ライブラリーツアー(自動書庫ツアー)』を実施します。普段はスタッフも入れない自動書庫内を、特別にご案内します。

ぜひこの機会にご参加ください。

日時：11月28日(月)～12月2日(金) 12:50-13:20
集合場所：図書館1階入口前

※「集合場所」の看板前にお越しください。

定員：各回先着5名
(定員になり次第、開始時間を早めて出発することがあります)

【学生記者コメント】

膨大な図書館の蔵書を効率的に保管する設備を知る、良い機会になりました。今後は講義やゼミの資料収集で、自動書庫を利用しようと思います！

総合政策学科3年 跡部 雄太郎

普段利用する図書館の中にある、私達があまり知る事のない裏側を見られてとても新鮮でした。他の利用者の方々にも、この様な縁の下の力持ちの存在を知ってもらいたいと思います。

英語学科1年 金子 愛美



自動書庫内の温度計兼湿度計。本のためにも、空調の管理は欠かせない。ちなみに、書庫の中の空気はひんやりと涼しく保たれている。



自動書庫の内部。このように、本の入ったコンテナがずらりと並んでいて、大変入り組んでいる。



出納ステーションにコンテナが到着したところ。コンピューターを使った請求から10分程度で、目的の本が私達の元へと届けられる。

「利用案内」の
詳細はこちらへ



<https://www.dokkyo.ac.jp/library/guidance/>